



JAA通信

(Japan Autonomous Academy)

日本自治 ACADEMY 会報誌

Vol.12 2017年6月発行

(ホームページアドレス)

<http://japan-a-academy.jp/>

[発行]

NPO法人 日本自治ACADEMY

北海道下川町西町88番地2(株)谷組内

郵便番号 098-1205

Tel:01655-4-2595

Fax:01655-4-2596

E-mail:info@japan-a-academy.jp

Contents

●北海道大学中央ローン:P1

表紙写真には、北海道大学構内にある中央ローンの風景を掲載しました。

●寄稿:P2~P4

今号では土木遺産を通じた台湾との交流をテーマに、北海道開発局札幌開発建設部の宮藤さんに寄稿をお願いしました。

●会員セミナー講演要旨:P4~P8

イギリスのスコットランド政府の動向を研究されている北大の山崎教授をお招きして会員セミナーを開催しました。

●フォーラム発言要旨:P8~P12

アジアからの留学生をお招きし、この2月に札幌市内で開催した日本自治 ACADEMY 主催のフォーラム「アジアと北海道のつきあい方パートIX」の内容を掲載しました。



北海道大学中央ローン 夏になると、涼を求めて多くの市民、観光客が北海道大学正門付近の中央ローンを訪れます。芝生を横切る小川はサクシュコトニ川で、かつてはサケも遡上しました。水源が枯渇し再生事業により、今は人工的にくみ上げた水を流しています。東京ドームのおよそ38個分という広大なキャンパスは市民に広く公開されポプラ並木やイチョウ並木、蓮の花が咲く大野池、クロユリの群生地など見所が一杯です

「土木遺産を通じた台湾と北海道 の交流について」

北海道開発局札幌開発建設部 宮藤秀之

1. 土木は何のため？

「父ちゃんのためならエーンヤコーラ、母ちゃんのためならエーンヤコーラ」は美輪明宏の歌謡曲「ヨイトマケの唄」の冒頭のフレーズである。ヨイトマケとは土木作業員を卑下するという言葉と考えられるが、そのヨイトマケが作業時に唄うのがこのフレーズである。苦しい土木作業ではあるが、日銭を稼ぎ、父母の生活を楽にしてやろうというヨイトマケの心意気が感じられる。私たちのような土木技術者の日々の労働も、自分や家族の生活のためでもあるが、果たしてそれだけだろうか？土木は何のためにあるのだろうか？必要のない仕事をしているのではないか？私もふとそんな疑問が浮かぶことがある。

私たちの目の前にある風景は決して 150 年前からそのような様相だったわけではない。北海道の開拓はわずか 150 年足らずの歴史であり、開拓当初は原生林、原野が広がっていたことは容易に想像できる。先人たちはこの原生林、原野を開拓、開発し、現在のような社会を築いた。その一翼を担ったのは、北海道開発に携わった当時の北海道庁であり、その後の北海道開発局の職員、つまり我々の諸先輩である土木技術者である。さきに述べた疑問を考える上で、先人たちはどのようなことを行ってきたのかを調べ、知ることは決して無駄ではない。

2. 八田與一について

八田與一は台湾の日本統治時代、烏山頭ダム

を含む壮大な水利システムである嘉南大圳（かなんたいしゅう）を建設した「嘉南大圳の父」とよばれる土木技術者であり、台湾で最も有名な日本人といわれている。嘉南大圳は、干ばつ、洪水、塩害の3重苦のためまともな作物がつかれなかった嘉南平野を一大農業地帯に変え、工事費を3ヶ年で回収できるほど農作物は増収となり、農地の地価は3倍になり、大きな経済効果を生んだと言われている。その功績の偉大さは台湾で地元の人々により毎年慰霊祭が開かれていることでもうかがうことができる。その人柄を示すエピソードは数多いが、烏山頭ダムの竣工に当たり、殉職者のための慰霊碑を建設することとなった際、その慰霊碑に名前を刻む際に日本人、台湾人の区別なく死亡順に並べるよう指示したと言われている。仏様の前では皆平等であるという仏教的思想が表れているとの指摘がある。また、ダムの建設工事に携わる職員・作業員の宿舍を建てる際は、家族と共にあることで安心して良い仕事ができる、との信念から当時の予算担当の反対を押し切って、ダムのそばに、必ず家族と一緒に住めるような宿舍を設計したという。

東京帝国大学工学部で廣井勇教授のもと土木を学んでいた八田は、「八田に内地は狭すぎる。内地にいれば狭量な人間に疎んぜられるようになる。八田を生かすには、外地で仕事をさせるのが一番ではないか」との周囲の声を受け、台湾勤務を志したとのことである。八田は嘉南大圳の完成後、南方開発派遣要員として綿作かんがい指導のため、3人の部下と共にフィリピンに向かう大洋丸に乗船した際、五島沖でアメリカの潜水艦の攻撃に遭い死亡している。この日が昭和17年5月8日である。

台南市の烏山頭ダムのほりにある銅像を前に、毎年5月8日に烏山頭ダムや嘉南大圳を管理している嘉南農田水利会（日本でいう土地改良区に相当）主催による慰霊祭が行われている。地元の農家や首長、そして日本から関係者など総勢400人以上が参加する一大行事とな

っている。

3. 保原元治について

保原元治は宮城県仙台市出身で、明治43年に東京帝国大学を卒業後、廣井勇教授の「仕事のし甲斐ある場所を望むなら北海道へ行け」という奨めに応じ、北海道庁に就職し、昭和12年に退職するまで、一貫して夕張川の改修計画及び工事に携わり、「夕張川治水の父」と呼ばれる土木技術者である。改修前の夕張川は千歳川に合流しており、毎年のように洪水を引き起こしてきた。洪水時に水位が高くなると川の両岸にそれぞれの住民が集まり様子を固唾をのんで見守り、対岸の堤防が切れると切れていない側の住民が思わず「バンザイ」を繰り返すという、バンザイ堤防と呼ばれる状況が、ほんの100年前にあったのである。

保原元治はこの状況を抜本的に改良すべく、夕張川の新水路（ショートカット）の計画及び工事に27年間に渡って携わり、完成させた。その状況は「小説 治水」（伊藤兼平著）に詳しいが、地域住民の立場にたち、課題を解決するという保原の一貫した姿勢が記されている。エピソードをあげると、工事が進捗し、新水路への通水が迫ったある日、大雨となった。夕張川の水位が上がる中、住民たちは勝手に新水路の「土留め」を切り欠いて新水路に緊急通水をしてしまった。当然施工機械等は水没してしまったのだが、保原はこれを「お咎めなし」としたという。

夕張川新水路の通水後は周辺農地からの収量は増加し、わずか5年で切り替え工事費が回収されるほどであったという。また、夕張川新水路は烏山頭ダムと同様、土木学会の選奨土木遺産に選ばれており、保原の栄誉を称え感謝する式典として、地元の南幌町では7月1日に治水感謝式が、長沼町では7月2日に水祭りが毎年地域住民により行われている。

この保原と八田は、東京帝国大学の廣井勇門下の同期生であるが、このことを発見したのは

長沼町の八田與一研究者である山崎晋氏である。台湾の八田與一墓前祭に何度となく参加している山崎氏は、平成26年、長沼町「水祭り」に台湾の八田與一文化芸術基金会の徐金賜会長や八田與一の孫である八田修一氏を長沼町に招き交流会を開催している。

4. 土木遺産を通して台湾と北海道の交流を深めるツアーについて

私たちはこのような北海道と台湾のつながりを踏まえ、実行委員会形式で「土木遺産を通して台湾と北海道の交流を深めるツアー」を平成27年から企画している。実行委員長には烏山頭ダムを始め、台湾の産業遺産に詳しい酪農学園大学元教授の山田大隆氏に就任いただいている。ツアーは5月8日の八田與一墓前祭参列をメインとし、台湾における日本統治時代に建設された土木遺産などを見学するという千歳発着の4泊5日の行程である。見学コースの設定や案内パンフレットの作成、参加者の募集など、手作りの企画であるが、土木学会北海道支部の後援を受け、京王観光札幌支店の協力を得て催行している。毎年参加者には大変な好評をいただいている。

特に今年は4月中旬に中国統一派の活動家により八田與一像が破壊されるという衝撃的な事件が起きたため、慰霊祭の開催が危惧されたが、関係者の多大な尽力により、無事像は修復され、慰霊祭も滞りなく開催された。私たちツアー団も慰霊祭に参加するとともに、その翌日、現地の嘉南農田水利会を表敬訪問し、何かの役に立てばとお土産とともに寄付をお渡ししたところである。嘉南農田水利会楊会長からは感謝の意が表明され、台湾と北海道の交流がさらに深まっている。

5. 改めて、土木は何のため？

台湾で尊敬される八田與一、北海道で感謝される保原元治、ともに地域住民に信頼され、住民の手により慰霊祭、感謝祭が毎年開催されて

いる。しかしその尊敬の念は二人の土木技術者だけに捧げられているのではない。人々は完成したダム、新水路に感謝しているのであり、その作業に携わったすべての土木作業員、ヨイトマケにも捧げられているのである。

冒頭紹介したヨイトマケの唄には続きがある。「父ちゃんのためならエーンヤコーラ、母ちゃんのためならエーンヤコーラ、もひとつおまけにエーンヤコーラ」

私はこの「おまけ」に「みんなのために」の意味が込められているのではないかと考えている。

6. 最後に

「土木遺産を通して台湾と北海道の交流を深めるツアー」は今年で3回目を迎え、無事終了したところであり、来年も継続実施する予定である。ご興味のある方の多くの参加を心よりお待ちしております。



「無事に修復された八田與一像」



「嘉南農田水利会楊会長(右)にお土産を贈呈する山田委員長(左)」

会員セミナー講演要旨

日本自治 ACADEMY では、グリーンシード21と共催で、イギリスのスコットランド政府の動向を研究されている山崎幹根さん(北海道大学法学研究科教授)をお招きし、昨年(2016年)の11月に札幌市内で会員セミナーを開催しました。

「EU国民投票に表れた イギリス・スコットランド政治の課題」

私は去年(2015年)の9月から今年の9月までの1年間、スコットランドのスターリング大学で勉強させていただく機会を得ました。スターリングは列車でエディンバラから約1時間、スコットランド中央部にある町です。

人口は約5万人の小さな町ですが、実は700年程前はスコットランド王国の首都でした。当時、スターリング郊外のパノックバーンというところで非常に大きな合戦がありまして、イングランド軍を撃破してスコットランドの独立を勝ち取ったという歴史があります。

さて、本日の話ですが、私は1年間ここに滞

在し、ヨーロッパの歴史的な大転換を垣間見る機会に恵まれました。その最たるものがブレグジットです。

本日の話の結論を先に申しますと、「異議申し立て」ということに尽きるのかなと思います。何に対しての異議申し立てなのか。既存の政治体制に政策課題の解決能力がない、あるいは、国家の統治能力の低下の露呈。そのようなことへの人々の異議申し立てが、2年前のスコットランド独立運動の住民投票結果にあらわれ、そして今回のブレグジットであらわれ、またそれは国は異なりますが、今のトランプ現象にも通じることではないのかと考えているところです。

また、今回の留学では、スコットランド国民党という地域政党の草の根活動家の皆さんや、エディンバラにある在総領事館に在籍している北海道開発局のスタッフの方々に大変親切に対応していただき、外から見ただけではわからないスコットランド政治に触れることができたことが大きな成果となりました。



スターリング城

現在の既存の政治体制に対する様々な批判、異議申し立てがイギリスで最初に出てきたのは、2年前（2014年）の独立を問うスコットランドの住民投票ではなかったかと考えられます。

85%という驚異的な得票率、45%の賛成、55%の反対という僅差でスコットランドは独立しないということになったわけです。なぜ45%という予想をはるかに超える多くの独立賛成票が集まったのか。2010年からずっと保守党政権が続いてきましたが、スコットランドでは保守党の人気のないで、この時点で国会議員はたったの一人です。国会議員を一人しか選んでいないのに、全英では保守党政権になっている。そして自分たちが望まない政策を次々と押し付けられる。この時に言われていたのが福祉サービスの切り下げです。そうしたことに対する異議申し立てでした。

もうひとつのポイントとなるのはネガティブキャンペーンです。イングランドの保守党の政治家たちは、独立すると銀行がどんどん撤退しますよとか、スーパーマーケットの物の値段が高くなりますよとかと言って不安をあおりました。それはスコットランドの人々の怒りと反発を巻き起こしました。だったら独立しようじゃないかという反中央感情が高まりました。報道はあまりされなかったのですが、キャンペーン団体とは別に、いろんな市民、住民の方々が様々なところで独立の賛否を論じあうローカル・ミーティングといったものを行っていたことも大きな特徴です。



こうした熱気が2015年5月の下院総選挙にもそのまま流れ込みました。全英レベルでは予想に反して保守党の単独政権となったんですが、スコットランドでは信じられないことに59議席中56議席をスコットランド国民党（SNP）が占めました。その前は7議席しかなかったんです。

あと日本では考えられない事態として、党員が急増しまして、2003年には2.5万人しかいなかったんですが、2015年には約10倍の11.5万

人に激増しているんですね。SNP の力はどんどん強まって今日に至っています。

スコットランド国民党はどういう地域政党かというと、まず一言でいうと、イギリスからのスコットランドの独立というのが党是です。さらには、平等主義、公共サービスを重視した北欧型の社会民主主義を標榜しています。ですから、言い方を変えると競争原理だとか新自由主義的な行政改革を指向するイングランドとは自分たちは違うということを強調しています。さらに、草の根の活動家の方たちは、顔の見える親密なコミュニティで、みんなで支えあっていくのが自分たちの社会なんだということを言っていました。

スコットランド国民党の創立は 1934 年に遡りますが、創立当初は文化的な次元でスコットランドの独自性を言っているような団体に過ぎませんでした。国会議員も一人も送り込めない時期が長くて不遇の時代がずっと続きました。

それが、80 年代に入り、反 EU から EU に加盟した独立国家を目指すなどの現実路線に少しずつ転換していき、また、1 人 1 票制の導入など党組織の近代化の取組、さらには党首の個性を全面に出す戦略などにより、スコットランド政府における政権運営能力を保持することに成功しまして、2007 年からはずっと、スコットランド政府の政権党として君臨しております。



スコットランド国民党 (SNP) の皆さんと

独立を問う住民投票キャンペーンの終盤、賛否が拮抗していた時に、保守、労働など全国レベルの党首がスコットランドが独立しないであってくれたら、スコットランドにもっと権限を移譲することを公言したんですね。

その公言を実行するために、2015 年に国会で改正スコットランド法が上程され、様々な議論を経て、今年の 3 月にそれが制定されました。

どれくらいの権限移譲がなされたかということ、すべての所得税と間接税の半分、イギリスの消費税は 20% なので、10% ということになります。また、一定の福祉サービスについてもスコットランドのやりたいようにどうぞということになりました。このことによって少しラフにいうと、約 5 割が自主財源となり、内政の大半の行政権と立法権をもつことになりまして、このスコットランド法が施行されるのは来年 (2017 年) の 4 月です。イギリスの全国政府の方は、これでスコットランドは世界で最も権限を持っているサブナショナルな政府であると強調しています。

ただ、人口減が予想されるスコットランドにおいては、長期的にみて、この税源移譲よりもこれまでどおりの一括交付金でもらった方が有利ではないかとの試算も出てきたことから、抜本的な見直しは 5 年後に実施するということになりました。



そして、5 月 (2016 年) にスコットランド議会の選挙がありました。この選挙でスコットランド国民党は圧勝し、3 期目の政権を担うことになりました。また、驚いたのは、労働党の衰退です。この選挙で野党第一党から転落しました。戦後、ある時期から労働党はスコットランドではすごく強い政党だったんですね。全国で政権をとるときには、スコットランドでも大量に議席を得て権力基盤を築くというのがこれまでの定石でした。逆に今までスコットランドで全然振るわなかった保守党が躍進を果たしました。

そして、今回の選挙で有権者の判断に影響を与えていたのは党首の存在です。今、スコットラ

ンド国民党はニコラ・スタージョンさんという女性が党首で、ものすごい人気です。今回の滞在中、党大会に参加する機会を得ましたが、彼女の演説に党员の方々は感激しまくっていました。スタンディングオベーションなど、まるでロックコンサートを見ているかのようでした。政策本位で理性的に政治を語るというより、やはり党首の人柄、人気で党勢が左右されている部分が相当あるように実感しました。

躍進を見せた保守党も、ルース・デイビッドソンさんという若い女性の党首です。彼女の演説はすごいパワフルで他の党首とやり合うんですが、その姿が人気を博しています。

さらに、今回の選挙の焦点は 2 回目の独立住民投票を実施するかどうかでした。これに対して、スコットランド国民党は次のような言い方をずっとしてきました。「スコットランド市民の大多数が独立したいということが確実にになったらやる」「2 年前と政治的環境が大きく変わって、やらざるを得ない状況になったらやる。たとえば、全英レベルで EU 離脱の国民投票をした時に、全英レベルでは離脱、スコットランドでは残留となった時など」こういう言い方を 5 月 (2016 年) の時にはしていました。



イギリスの EU 離脱の国民投票についてですが、この背景に何があったかという、一つには、EU というのはブリュッセルに拠点をおく超国家的な組織であるため、民主的なコントロールが及びにくい、言い換えれば、EU にはヨーロッパ議会があり、各国から議員が選ばれるわけですが、その議会が EU の巨大な官僚制機構をコントロールする機関になっているかという、そうっていないという現実があります。

二つ目には、EU が果たしてきた最大の功績はドイツとフランスが絶対に戦争しないという仕組みを作ったということです。イギリスがオールヨーロッパにかかわるときの EU の設立の理念、価値の共有というところでちょっと温度差があります。EU の繁栄のためにオールヨーロ

パでやっていくことに対して、大陸諸国とイギリスでは考え方が違うところがあるんですね。

さらに 30 年前ですが、当時のサッチャー保守党政権が EU にかみついたのが、EU のお金が 1/3 くらい農業の補助金に使われていることに対してです。ドイツやフランスのような農業国は EU への拠出金が農業補助金で戻ってきますが、農地の少ないイギリスはそうはなっていません。それで、イギリスには特別の払戻金を出すことになって、それが今でも続いています。

三番目は、保守党内部での対立です。主権のコントロールがどんどん及ばなくなることへの危機感、苛立ちは保守党の政治家の中で勢力を増してきました。本来は保守党の中で、EU、反 EU の争い事をリーダーシップを持って解決すればいいのですが、これができなくなってきました。

それと、保守党を外から脅かす勢力としてイングランドで躍進しているのはイギリス独立党です。この反 EU を掲げている勢力を無視できない。こういった勢力を押さえ込む意味もあり、国民投票をしましょうとだんだんとなっていったわけであります。



国民投票の過程ですが、スコットランドから見ているので、全英的にくまなく見ているわけではありません。少し割り引いて聞いてください。

最初、投票運動はあまり盛り上がりませんでした。その理由の一つとしては、EU というのは普通の市民の目から見れば雲の上の存在、たとえ EU の政策が直接市民生活を左右していたとしても、実は政治家、専門家や、補助金、規制を受ける事業者、団体を別にすれば日常生活の中で EU の存在意義を実感することは困難。多くの人々にとって EU の存在感はあまりないわけです。二番目として言えるのは、EU の価値や理念を語るというのは抽象的になりがちなんですね。市民に実感を得る形で訴えるということは難しかった部分があります。

そのあと、投票キャンペーンはどのようにな

っていったかという、終盤から両派によるネガティブキャンペーンが過熱していきました。残留側は当時、保守党政権下の財務大臣にジョージ・オズボーンという方がいて、離脱したら経済が悪化しますよ、財政負担がどんどん増えますよ、住宅価格は下落しますよ、大変なことになりますよと散々いいました。一方、離脱派は移民に焦点を当てたネガティブキャンペーンを展開して、急先鋒だったのが、イギリス独立党のファラージ党首であったわけです。



国民投票の結果ですが、離脱 52%、残留 48% という僅差でした。また、投票率も全英レベルで 72% と高くなりました。

私は、このような結果になるとは当初予測していなかったのですが、何がこうした異議申し立てになったのかを考える機会を得ました。投票の直前、イングランド中部のグランサムやボストンで活動するイギリス独立党の方々に訪問することができました。グランサムはマーガレット・サッチャーの生まれ故郷です。そこから車で 40 分くらいのところにあるのがボストンです。ここのイギリス独立党の活動家の方々はかつて保守党を支持していた人が多くて、中高年、白人、自営業者、地方議員の人たちです。

彼らの言い分はこうです。キャメロン保守党政権発足以来、ずっと緊縮財政が続いて、地方政府への財源配分が少なくなり、公共サービスの低下が余儀なくされてきた。そこへ、東欧などから大量の移民が入ってくることが重なった。その結果、公営住宅の順番待ちが長くなるとか、かかりつけ医の予約がとりにくくなるとか、低賃金で働く労働者が増えて労働環境全体を低下させるよう作用した。こういう状況をロンドンの政府に言っても解決してくれないし、ましてブリュッセルには自分たちの声は届かない。

2015 年総選挙でイギリス独立党は 400 万票を獲得しましたが、イギリスは完全な小選挙区制なので、得た議席はたったの一つ。こういう状況はおかしいという不満、批判が出て、さらには自

分たちの生活の質は自分たちでコントロールしたい。こうした訴えが国民投票を盛り上がらせることになったということです。ですから、彼らの運動の仕方を聞いてみて、スコットランドの SNP と非常に似ていると思いました。



最後になりますが、今後のイギリスの動向については、EU には入っていないけれども自由貿易圏に入っていて、人の出入りの自由も認められていて、なおかつ EU への拠出金を払っているノルウェーみたいなパターンになるだろうとも考えられます。いずれにしてもそうした個別交渉をどれだけやるのかというところがこれから問われています。

また、スコットランドはどうなるか。どの世論調査をみても、5 割を超えて独立賛成というものはありません。もう 1 回やっても負ける可能性もあります。SNP にとっても 2 回目に負けると政治的ダメージになるので、慎重にならざるを得ないところがあると考えています。

そして、既存の政治体制への異議申し立てにより、2 年前のスコットランドの住民投票となり、今回のブレグジットではイギリス独立党という政党が台頭しました。スコットランドへの権限移譲がどんどん進む一方、ブレグジット以降、イングランドには地方政府がないので、イングランドナショナリズムというのも徐々に高まってきています。グローバル化の進展や経済的な格差が広がる中、イギリスの政治リーダー、政権がしっかりした政策を持たないと国家統合は今後ますます難しくなると考えているところでございます。

フォーラム「アジアと北海道の
つきあい方パートⅡ」発言要旨

日本自治 ACADEMY とグリーンシード21では、
アジア地域との結びつきをより深めるため、2008 年

から毎年、フォーラム『アジアと北海道のつきあい方』を開催しております。

9 回目となる今回は、『「北海道」で学び、世界を翔る！～アジアからの留学生、北海道の未来を語る！』をテーマに、北海道国際交流・協力総合センターの協力により、7 名の留学生をお招きし、2 月 3 日に札幌市内で開催しました。

菅原 皆様こんばんは。南幌町議会議員の菅原文子と申します。本日のコーディネーターをつとめさせていただきます。私は、本フォーラムを共催しているグリーンシード21の活動にも参加しております。また、今は、北海道大学の公共政策大学院で学んでおりますが、大学院には中国からの留学生の方も多くいらして、皆さん日本語がとても堪能です。

私はアジアに大変興味があり、きょうのフォーラムを心待ちにしておりました。本日は、明るく楽しい雰囲気になるように進めていきたいと思っております。皆様よろしくお願いいたします。では、まず自己紹介からお願いいたします。



鐘 正(ショウ セイ) 皆様こんばんは。ショウセイと申します。中国の広東省出身です。今は室蘭工業大学の修士 2 年生で、来週の火曜日でもう卒業となります。きょうはどうぞよろしくお願いいたします。

チャンポーカン 皆様こんばんは。マレーシアから来ましたチャンと申します。今、北海道大学工学院的博士 3 年生で今年 9 月卒業の予定です。

私の趣味はマラソンや旅行などです。よろしくお願いいたします。



潘 盈珊(ハン エイサン) 皆様こんばんは。私はハン エイサンと申します。台湾の台中から来ました。今は、札幌国際大学の観光学研究科の修士 1 年生です。よろしくお願いいたします。

孫 易琪(ソン エキキ) 皆様はじめまして。こんばんは。ソンエキキと申します。私は北海道大学理学院で勉強しています。来日 6 年目で出身は中国の瀋陽市で、札幌市の姉妹都市です。札幌より相当寒いところで、あまり雪が降りません。よろしくお願いいたします。



ファティマ ジョイ コンスル クルーズ 皆様こんばんは。私は、ファティマ ジョイ コンスル クルーズと申します。長くてすいません。ファティと呼んでください。フィリピンの海に近いカビテ州というところで生まれました。2013 年に日本に来まして、今は、北海道大学の博士課程 1 年生、生化学部門で研究をしています。よろしくお願いいたします。

ファーレザ アインヌル・リザル 皆さんこんばんは。インドネシア出身のファーレザ アインヌル・リザルと申します。インドネシアでは学生の4年生で、ここでは北海道大学の日本語・日本文化研修コースで日本語を勉強しています。よろしくお願いします。



李 肖陽(リ シャオヤン) 皆さんこんばんは。リシャオヤンと申します。中国の中央部、河南省が出身地です。今は、北海道大学の環境科学研究院の博士3年生です。私の趣味は旅行と料理づくりです。道内では、天塩や下川、余市などを訪れましたし、札幌市内で、餃子の作り方を教える機会も得ました。よろしくお願いします。

以下、コーディネーターの問いかけに留学生が答える形式でフォーラムが進行しました。留学生の発言要旨は次のとおりです。

ーなぜ北海道の大学を選んだのか。

- ・ 研究テーマの検索で室工大がヒットした。
- ・ 大都市ではないところの大学の方が自分のペースに合っていると思い、受験した北大に合格した。
- ・ 祖母が北海道を旅行した際のいい思い出をたくさん聞いていたことや、台湾人にとって魅力的な観光地ということもあり、観光を勉強するなら北海道だと思った。
- ・ 高校の時に中国映画「狙った恋の落とし方」を観て北海道に留学したいと思った。
- ・ 自分の研究したい内容に近い先生がいたの

が北大だったことと、自分を支えてくれる友人が北大にいた。

- ・ インドネシア人だけど暑いところあまり好きではなかったのも、北海道での生活が魅力的に思えた。
- ・ 北大は環境科学が強いので、北海道を選んだ。

ー北海道でどのようなことを学びたいか。

- ・ 北海道には森がたくさんあるし、水もきれい。北海道の自然に関心がある。
- ・ 日本語のことを深く勉強したい。また北海道なのでアイヌ人のことも勉強したい。
- ・ 北海道は海外から来ている人も多い。みんな考え方も違うし意見も異なる。そういうことを今は少しずつ学んでいる。
- ・ 夏は景色がきれいで、冬は雪が多い。景色を撮るための写真の勉強をしたいし、スノーボードも上手になりたい。
- ・ 専攻が観光。北海道は1年中いろいろなイベントがあるので、勉強の視点からイベントに参加し、様々ないいところを学びたい。
- ・ 北海道は空気がきれいなので、マラソンをするのに最適な場所。できればフルマラソンを完走したい。
- ・ 道民はやさしい。昔は気が短いほうだったが、北海道に住んでから、自分もやさしくなってきたと思う。

ー日本で北海道以外に住んだことのある人にお聞きしたい。そこと比べて北海道はどうか。

- ・ 京都に住んでいたが、中国北部の出身なので気候的には北海道の方が住みやすい。乾燥していて湿度も丁度いい。不便なところは冬道が歩きにくいぐらい。
- ・ 東京に1年住んでいたが、北海道の方が住みやすい。今は通学も歩くか自転車。東京では電車は便利だが、混んでいるし、通うのにも時間がかかっていた。また家賃も高いし、冬は部屋の中が寒い。
- ・ 東京に住んでいた。「食のバリアフリー」(ベ

ジタリアン、ハラルなど食に制限がある人に対応できていること)について研究している。北海道は東京に比べるとベジタリアンにとっては外食するときにはとても不便。東京はベジタリアンに対応するお店が多い。

- ・ 横浜に2年住んでいた。北海道は勉強するには静かで良い環境が整っている。室蘭はにぎやかな場所がもう少しあるといいと思う。

一会場の皆さんから留学生にお聞きしたいことがあるか。会場から①:北海道で食べて美味しかった料理または好きな料理は何か。

- ・ 寿司やお好み焼き、焼肉、サッポロビールなど。
- ・ 日本の食べ物で一番好きなのは味噌ラーメン。スープカレーや寿司も好き。
- ・ 北海道で一番おいしいと思うのはチーズやアイスなどの乳製品。また、東京や名古屋で牛乳を飲んだが、北海道の牛乳は圧倒的においしい。
- ・ ベジタリアンなので肉と魚は食べないが、野菜のスープカレーが一番好きな食べ物。北海道を訪れる友人などをお店に連れていく。
- ・ 積丹のウニと牛乳が好き。



一会場から②:学費・生活費はどうしているか。

- ・ 学部生の時はアルバイトをしていた。今は研究が忙しいので単発のアルバイト。両親からの仕送りも受けている。
- ・ 文科省のプログラムに入っているのだから資金が出ている。授業料は免除。

- ・ 毎月奨学金をもらっている。
- ・ 以前は中国政府の奨学金をもらっていた。今は助手をしているので、そこから報酬を得ている。
- ・ 中国にいるときに学費を貯金してから日本に来た。修士に入って学費免除。奨学金ももらっている。
- ・ 日本の国費奨学金とフィリピンの奨学金。
- ・ 台湾から返還しなくて良い奨学金をもらっている。学費は免除。アルバイトもしている。

一会場から③:日本に来て友人はできたか。

- ・ インターンシップで旅館で実習をした時に友達できた。
- ・ 東京では同郷や留学生の友達が多かったが、札幌に来てからは、同郷の留学生が少なかったの、日本人の友達もできた。
- ・ 中国の留学生の代表をしていたので、室蘭のいろいろな団体の人との接点できた。
- ・ 研究室や日本語教室で友達できた。
- ・ 書道ワークショップをインドネシアでやったときに日本人の友達できた
- ・ 研究室の同期の方と友達になった。
- ・ 趣味の写真を通じて友達できた。

一会場から④:Facebook や Instagram で写真をアップした時に、出身国の友達から「いいね」が多かった北海道の写真は何か。

- ・ 日本人の友達と一緒に写った写真。研究室のパーティーの写真や高校生との交流の様子など。あとは景色の写真も。
- ・ 自然の写真。秋の紅葉など。「行きたいな～」などのコメントがあった。
- ・ 北海道の自然。秋が終わっていないのに雪が降り始めた時の紅葉に雪の写真は反応が良かった。あとは着物の写真とか。
- ・ 一眼レフで撮った札幌の夜の風景とか。あとは北海道の中で有名な小樽や美瑛で撮った写真。雪まつりやレインボーマーチの写真も。
- ・ 雪の写真。台湾は高い山以外雪が降らないの

で、雪やスキーの写真はみんな興味津々。あとは、四季折々の桜や紅葉、アジサイなど花の写真。

- ・ 自分の国にない雪や桜の写真。
- ・ 帯広の勝毎花火大会やスノーボードの写真。

―会場から⑤:観光地としての北海道について感じたことは何か。

- ・ 台湾から来る人にとっては雪で飛行機が飛ばないことが問題。また、ベジタリアンにとっては食についての心配もある。それと英語で道を尋ねたりすると怖がられることが多いと聞く。
- ・ 登別温泉で通訳のバイトをしている。日本語と中国語を話せる人材は足りないと感じている。観光スポットには人材がもっと必要。
- ・ 北海道は本州と比較して公共交通機関が少ない。解決するには人口を増やすしかないのではないかな。
- ・ 今はスマホもあるし、観光でそんなに困ることはないと思う。
- ・ 雪の影響でJRが動いていない時はあせった。
- ・ 北海道の観光スポットでは英語版がないところが多い。
- ・ 新千歳空港で、飛行機が急に運航休止になった時にも、快適に空港内で夜を過ごせるよう改善を望む。

菅原 会場からも聞きたいとの声があったが、私も留学生の皆さんが将来どうするのか非常に興味がある。皆さん、学業が終わった時に、北海道に残るのか、北海道以外の日本に住むのか、それとも自国に戻るのか、他国に行くのか。将来、何をしたいのか、お聞きしたい。

- ・ 気持ちとしては北海道に残りたいが、就職先はすでに関西に決まってしまった。ものづくりをしたい。
- ・ 北海道には工場や研究所は少ない。でも北海道に残って家を建てたい。それで今は大学の先生を目指している。

- ・ 北海道で就職したい。先輩も何人か空港やホテル、旅行会社などで働いている。
- ・ 将来は研究者になりたい。日本に残れるなら北海道にいたい、アメリカやヨーロッパに行くかもしれない。
- ・ 国に帰って早く働きたいと思っていたが、最近北海道に住んでハラル対応の店を持ちたいと思うようになってきた。
- ・ 北海道の生活に慣れてきたので、北海道で働きたい。
- ・ 東京に住んでみたい。友達からは東京はいいと聞いている。東京にいる日本人は積極的に英語を使おうとしているらしいので、そういう経験もしてみたい。将来はフィリピンの大学で教えたい。

菅原 職種によっては、北海道で勤めるのが難しかったりもします。そこが北海道の課題でもあると思います。きょうは、ここで終わらせていただきますが、7人の方の日本語の素晴らしさには感心いたしました。会場の皆さんもまだまだお聞きしたいことがたくさんあると思いますが、このあと予定されている懇親会で交流を深めていただきたいと存じます。本日はどうもありがとうございました。

【編集後記】 今回の会報誌は、当 ACADEMY 主催のフォーラム「アジアと北海道のつきあい方パートIX」と会員セミナーの内容を掲載するとともに、北海道開発局札幌開発建設部の宮藤さんに寄稿をお願いしました。宮藤さんには、「土木遺産を通して台湾と北海道の交流を深めるツアー」の最新情報もご紹介いただきました。お忙しいところ、ご協力いただき厚くお礼申し上げます。台湾ツアーは来年も継続して開催するので、皆様の参加をお待ちしているとのことです。また、表紙写真は、北海道大学法学部同窓会の高橋事務局長のご協力で、市民や観光客の方々が多く集う北海道大学構内の模様を紹介させていただきました。感謝いたします。(K・S)